

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>1 開会</p> <p>以下、館長が進行</p>
事務局	<p>内山委員、秋本委員、藤本委員より「所用のため欠席」との連絡をいただいている。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p>
会長	<p>協議に先立ち、会議の公開について、規定により原則公開となっているがよろしいか。</p>
委員	<p>委員了承</p>
会長	<p>会議録署名人は齋藤委員、針生委員とし、記録方法については、要点筆記とする。</p> <p>「発言者」及び「答弁者」の記載方式について、発言者の委員名は「委員」とだけ記載するがよろしいか。</p>
委員	<p>委員了承</p>
事務局	<p>傍聴者1名</p>
事務局	<p>資料の確認</p>
事務局	<p>3 議事</p> <p>(1)第4次所沢市子どもの読書活動推進計画について</p> <p>第3次所沢市子どもの読書活動推進計画が令和5年度での終了に伴い、次期計画である第4次所沢市子どもの読書活動推進計画の策定をすすめている。国や埼玉県との計画とともに、市の上位計画である総合計画、教育振興基本計画との整合性をはかりながら進めている。第1章は、計画策定の趣旨、計画の対象、</p>

事務局	国・県の動向、計画の位置づけと期間を掲載。第2章では、第3次計画期間における所属の主な取り組みの成果と課題などを掲載。詳細は巻末の資料編を参照。まずは第2章までについて、意見を伺いたい。
委員	5ページの子どもの読書環境の整備・充実について、学校司書の役割は大きいので、1人の司書が2校受け持つのは負担がかかる。学校司書が1校に1名ずつ配置されていないため、成果ではなく課題ではないか。
事務局	全校に配置されたという点で第3次計画の成果としている。
事務局	市内中学校15校には、各1名ずつ配置している。所沢小学校など児童が多いところは1名配置だが、2校に1名が現状である。
会長	表記はこのままで大丈夫か。
委員	成果と受け止められがちなので、課題としてほしい。
事務局	現状に近いかたちでの表記を検討する。
会長	他に意見はあるか。
委員	私は小学校の読み聞かせボランティアをしているが、ボランティアと学校司書は会う時間がないのが実情である。連絡はノートでやり取りしているが、細かいことにも困っていると感じる。学校教育課と図書館で連携して研修会の頻度を増やしてほしい。実情にあった表現に変えてほしい。また、情報共有ができる支援をしてほしい。
事務局	資料編の77ページに、学校司書研修会実施として、令和4年は4回、5年度は4回を予定している。本の修理の研修を今年度予定していて、職員を派遣する。
委員	7ページ等のところっこ親子ふれあい絵本事業について、第4次計画でも継続する予定なのか。もしくは中止の予定はあるのか。
事務局	継続する予定である。
事務局	第3章について、第4次計画としては、第3次計画を踏襲している。不読率

事務局	<p>の低減、多様な子どもたちへの読書活動の整備、デジタル化推進などが主な内容である。19ページの基本理念は第3次計画を踏襲している。20ページの基本方針は基本理念の実現に向けた3つの目標を掲げている。22ページでは、3本柱に合わせた具体的な取り組みとして、家庭地域での取り組み（公民館などでの取り組みを含む）、各園での取り組み、学校での取り組み、所沢図書館での取り組み、としている。</p> <p>第6章の進行管理として、市の関係部署で構成された子どもの読書活動推進連絡会にて毎年度進捗状況を確認することとしている。第3章以降について、意見を伺いたい。</p>
委員	<p>保育園幼稚園との記載で、全国的に保育園の60%以上が認定こども園に移行しているため、認定こども園の表記を入れてほしい。</p>
会長	<p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>57ページの地域における読書機会の充実について、私は中央公民館に民生委員として関わっており、図書館の所沢分館の職員が来て、読み聞かせや母親向けのおすすめ本や紙芝居等の紹介をしているのを見た。</p> <p>公民館への出張がどこにも書かれていないのもったいないと思う。</p>
事務局	<p>62ページに取組として成果の記載があり、第4次計画については、25ページの（1）家庭教育学級・子育て講座・出前講座等への協力を記載がある。また、5ページの下から2番目の文章でも触れているが、もう少し具体的な表現を考える。</p>
委員	<p>計画の中に「新規」と散見されるが、新規とはどういう意味か。</p>
委員	<p>部外者から見るとわかりづらい。</p>
事務局	<p>理解しやすい表現を検討する。</p>
委員	<p>31ページの学校司書の配置等について、私は学校ボランティアをしていて、松井小学校の方で本館のノウハウを体験し、さすがプロは違うと感じた。もっと連携が取れる配置を考えてほしい。</p>
委員	<p>私は学校の図書ボランティアをして15年になる。図書の購入は校長の采配の影響が大きいが、蔵書の入れ替えは他の先生の協力が必要。学校司書がいな</p>

委員	<p>い時は、司書資格がある先生が図書室の管理をするが、担任を持っているので時間が割けず、ほぼ私が采配している状況だった。なるべく新しい本を入れていたが、充実できるかは校長次第であった。学校司書とボランティアの連携も、代表として私が学校司書とやり取りしていて、新しい本の購入の相談を受けていた。うちの学校は司書が週に2日来る内の1日を活動日としている。図書館から読み聞かせのレクチャーのお知らせがあっても、先生の所で止まっている学校も多いと思う。図書館から、ボランティアにもきちんと流してもらうような働きかけはできないのか。</p>
委員	<p>江戸川区の読書のすすめという本屋で、店員が本の説明をすると人が集まってくる。現場の思いを伝えていける環境が大事だと思う。図書館は静かだが、自分の価値観だけで読むのではなく、本好きの人が集まって、本のプレゼンができる座談会のようなものができたら良いと思う。ボランティアが意見できる環境が増えていくと本を読みたい人が増えていくと思う。</p>
委員	<p>柳瀬小では、ボランティアのイベントの時間として、1学年につき1時限をいただき、子ども達に本に興味を持ってもらえるような演目をしている。そのために努力して、楽しくやっている姿を見せるのも教育になると思う。学校との連携を持てると良いと思う。</p>
会長	<p>今の意見を学校教育課に伝えていただくと良いと思う。</p>
事務局	<p>毎年3回の子どもの読書活動推進連絡会の際に小中学校の先生が来る機会があるので、お知らせしたいと思う。また、生涯学習推進センターの出前講座や家庭教育学級に司書を派遣していて、毎年広報している。</p>
会長	<p>他に意見はあるか。</p>
委員	<p>第5章の39ページの評価指標及び数値目標について、来館者数や貸出冊数など数値化できるものになりがちだが、数値化できない指標を現場の方から提示していただくと図書館の存在意義を示せると思う。数値化だけでは図書館の評価は難しいのではないか。</p>
教育長	<p>私も同じことを感じていた。推進計画に指標として載せるのは中々難しいと思うが、司書と学校の連携や、子ども達が本からどのようなものを学ぼうとしているのか、教育委員会としては、子どもの意見をきき、実態を把握しながらすすめていきたい。</p>

会長	他に意見はあるか。
委員	P D C A サイクルとあるが、毎年策定するのか。
事務局	計画は5年間で、5年毎の長期目標、1年毎の短期目標を立てて、成果や課題を確認している。
委員	1年毎に振り返りながら改善しているのか。
事務局	5年単位だが1年単位で振り返り、連絡会も年に3回開催している。
会長	課ごとに出てきたものを確認していくものだと思う。他に意見はあるか。
委員	39ページの評価指標及び数値目標について、学校図書館を利用する子どもの割合で、小学校はクラス毎に図書館に行っているが、授業として利用した場合も含まれるのか。
事務局	第3次計画では、休み時間や放課後での利用、として質問している。
会長	他に意見はあるか。
委員	ある小学校では、放課後ところの人が図書室を使うのは良いが、普通は下校しなければいけないので、放課後に図書室を使う、というのはおかしいと思う。
委員	行間休み、昼休み、放課後の時間に貸出の時間を設けている学校もある。全校ではないが、学校の方針によって異なる。
委員	私も放課後のスタッフをしていたが、放課後ところを利用する子ども達は、図書室で宿題や読書ができるが、貸出はできない。
事務局	基準をそろえて、各学校で差異が出ないような取り方をしたい。
委員	<p>4 報告事項</p> <p>(1)その他 令和4年度分館モニタリングの報告について</p> <p>(針生委員より報告)</p> <p>新所沢分館、狭山ヶ丘分館、椿峰分館のモニタリングを実施した。新所沢分館は若い世代、特にお子さんの利用が多く、学生がすすめる本のポップが整備</p>

<p>委員</p>	<p>されていて、身近な図書館になっていると感じた。狭山ヶ丘分館や椿峰分館も、地域の特性を生かしていると感じた。指定管理者の方達がよく地域の方を理解していると感じた。</p> <p>(秋本委員より報告)</p>
<p>事務局</p>	<p>所沢分館、柳瀬分館、吾妻分館、富岡分館をモニタリングした秋本委員が本日欠席のため、事務局より代読。</p> <p>いずれの分館も清潔感があり、整理整頓がきちんとしていた。様々な展示物がありウェルカム感があり、親しみのもてる雰囲気醸し出している。職員のあいさつが分館によって、元気で明るいとところ、相手に届くか分からない小さな声で挨拶しているところもあった。図書館の仕事に対する情熱があふれ、図書館への愛が感じられる職員が複数の分館で出会え、頼もしく思った。こうした館では全体的な印象も明るく、サービスに対する熱意が伝わってくる。モニター実施の期日を分館に伝えているようだが、普段の様子をモニターしたいので、別の方法を検討してもらいたい。モニターに参加して、様々な工夫と努力している分館の状況をつぶさに体験でき、私自身刺激を受けた。現役時代であれば取り入れたいサービスが数々あり、とても勉強になった。ご説明いただいた職員の皆さんに感謝申し上げたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2)その他 第3次図書館ビジョンのアンケートについて</p> <p>第1回の協議会で様々なご意見をいただいたが、別添資料の通りとなった。調査方法としては、中学生は配布されているタブレットを使った回答方法を検討したが、他部署との兼ね合いにより今回は紙で行う。高校生は所沢市子ども若者情報チャンネルというLINEアカウントを利用し、電子申請で行う。分量が多いことは検討材料であり、回答率が低くなる可能性もあるが、今回は時代に合わせて電子申請で行う。小学生は紙のみで行う。一般は紙と電子申請の両方で行う。</p>
<p>事務局</p>	<p>(3) 図書館まつりについて</p> <p>今年度の本館の図書館まつりは11月18日(土)及び19日(日)に開催する。昨年度は新型コロナウイルス対策のために規模を縮小して1日の開催だったが、今年度は2日間の開催とする。コロナ禍が明けて間もないことから、実行委員会形式ではなく、職員が企画して開催する。今年度は特に学校と連携し、19日の午後1時から早稲田大学落語研究会による落語の講演会を行うほか、当日のボランティアスタッフとして、19日の午前中に所沢中央高校の生徒5名が参加する。所沢中央高校の図書委員が作成した、おすすめ本のポップの展示を行う。また、利用者参加の企画として、現在図書館川柳の募集をしている。応募された川柳は11月初旬から本館に掲示し、投票を行う。優秀作品</p>

